

研究等成果報告書

研究費の区分	基盤研究費・学部等研究費・全学研究費 種目：学部プロジェクト研究費
研究課題	岩手県立大学における英語教育プログラム改革 ― TOEIC (Bridge)による本学学生の英語力調査とその分析
学部等・職・氏名	共通教育センター・講師・高橋英也
研究成果の概要	<p>本研究は、H20年度より導入された新たな英語プレイスメントテストである TOEIC Bridge のスコア分析を中心に、(i)これまでの本学における英語教育の成果や問題点について総括を行い、(ii)本学学生の英語学力の実態を正確にとらえ、(iii)今後本学が目指すべき英語教育の方向性について検討する。そして最終的に、(iv)本学において理想的かつ実施可能な新たな英語教育プログラムを提示することを目標とするものである。より具体的には、以下に挙げる(1)から(4)の調査に基づくデータ収集・分析と、学外における TOEIC や共通教育関係の研究会への参加や他大学の実践事例などから得られる情報を用いて、今後どのような英語教育が本学学生に必要であるのか、またそのために何をどのように整備していかなければならないかを明らかにすることを目標とする。そして、本学が学生にどのような英語教育を提供し卒業時にどのような英語力を身につけさせることを期待するのか、という観点から本学にとって理想的な英語教育のあり方を具体的に提示することが本研究の最終的かつ究極的な目標とする。</p> <p>(1) 20年度から22年度の1、2年生を対象とした TOEIC(Bridge)の成績推移の比較検討 (2) 20年度から22年度新入生の学部別・入学区分別・出身県別の英語学力調査 (3) TOEIC(Bridge)の成績と授業における英語運用能力の関連性に関する調査 (4) 英語教員(専任)による課外での TOEIC 対策講座の実施と受講者を対象とした学内 TOEIC 受験(就職対策で受験希望の学生の受験も許可する)の実施と成績推移の調査</p> <p>今年度は TOEIC Bridge 導入初年度ということで、テスト実施時に用意した質問紙を用いて、20年度入学生の入学時の英語学力実態調査(20年4月7日実施)と、その後の英語学習に対する意識と成績の推移に関する調査(21年2月23日実施)を行い、データ収集した。また、本学の共通教育としての英語が学生にとって高等学校と専門課程との中間点・つなぎの位置にあることから、いわゆる「学びの転換」についてのシンポジウムに参加するなどして、研究最終年度の英語教育プログラム構築・提案に向けての理論的基盤作りも行った。</p> <p>なお、本報告書提出時には21年度入学生の实態調査(21年4月8日実施)のデータ分析も終了する予定である。</p>

目標の達成状況	本研究は3年継続希望の課題であることを考慮すれば、初年度の研究項目はほぼ予定通りに実施されたといえる。なお TOEIC 課外講習については今年度後期には実施予定であり、関連する質問紙調査等もあわせて実施予定である。今年度末には共通教育センター内において2年間の研究成果をデータとともに発表し最終年度の研究に向けた中間発表とすることを予定している。
成果発表等	